

聖書：使徒の働き 2章1-4/暗唱聖句：へブル人への手紙10章25節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

<教会の誕生:聖霊の生命の御業>

イエス様が昇天されてから聖霊が望まれた五旬節までの約10日間の間、120人の人々が奥まった部屋に集まって祈りながら約束された聖霊の神様を待ち望んでいました。そして五旬節に約束の通り、聖霊は臨在されました。約束のとおりに来られた聖霊の降臨は'新約教会の誕生'という点でとって大切な意味を持ちます。聖霊の神様が臨まれたゆえに新約の主の教会が誕生され、始まりました。

主の教会が誕生される直前まで、主の教会の形成のため、イエス様の使徒たち、すばらしい信仰の姉妹たち、イエス様に献身した信仰の人々が整えられていました。その人々が同じ空間で一緒に集まっていたのです。ともに心合わせて熱心に祈りを持って準備し、主のための献身と奉仕の準備もされていました。しかし、それでは不十分でした。主の教会が誕生されるためには人がどんなに計画し、努力し、準備したとしても決して完全に全うさせることはできません。ただ、イエス様の約束のとおり聖霊が臨まれた時こそようやく、真の主の教会の誕生が起こされ、知らされたという事実を今日私たちは覚える必要があります。

なぜでしょうか。なぜなら、主の教会はただ人の集まりではないからです。いくらたくさんの人々が、熱心な人々が集まっても御霊が共におられなければ、ただ人の交わりにすぎないからです。

聖霊の御業はいのちの御業です。聖書をよく注意深く読んで見ますと、聖霊様は宇宙万物の創造の時も、イエス様のご誕生の時も、イエス様の公の働きの初めの時もご一緒でした。そして、復活されたイエス様の御体である教会の誕生とともに教会の命も聖霊の降臨とともに始まったのです。そして、その以後も、臨在された聖霊は主の教会といつものとおられます。そして主の教会の中で聖霊の導きをいただいた者らはイエスキリストを救い主として告白し、救われた神の子供とされた事を確認したとき、自分も知らぬうちに聖霊の人となり、同時に聖霊を通してイエスの御体なる教会に接木されるのです。

<聖霊のバプテスマをどう理解すべきでしょうか。>

ある人は今日の使徒の働きの聖霊の降臨の出来事を見て、イエスキリストを信じている者たちは信じた後また今日の本文のような特別な聖霊の体験や聖霊のバプテスマを受けたのかとよく強調します。

みなさんはこんな話を聞いたら、どう答えられますか。確かにイエスキリストを信じた時、ドラマティックな体験をされた人々もたまにいます。イエス様を信じ神の子供とされた瞬間、今までの人生に劇的な変化が起こったり、周りの人たちがよく気づかされるような証拠と証を持っている人もいられるかも知れません。聖霊のバプテスマが体験的に起こった場合です。しかし、みなさん、昔からイエス様を信じ、教会の中でながく育てられた人はいつ聖霊の体験をされたのか、いわゆる聖霊のバプテスマをいつ受けたのか、いつキリストの体に連合されたのかその時点(じてん)をよくわかりません。だからと言ってその人たちに“あなたは聖霊の特別な体験がなかったから、聖霊のバプテスマを受けてない！”と決して言えません。あるいは、“イエス様を信じた時、あるいはその後聖霊のバプテスマを受けたのに、何の体験もなく、表に何のしるしもないから、あなたはまだキリストの体ではない”と絶対言えません。

愛する信仰の家族のみなさん！今日我々が体験する前に大切なのはなんでしょうか。それは神様の御言葉です。何か感じたり、体験よりもっと大切なのは信仰です。この信仰が御言葉の土台の上に強く立つ前に、ある体験を強調したり、経験ばかりに強調しそれにはまると、もっと大きな混乱をまねいてしまうか、信仰の正しい方向から外れてしまいます。

私は特別な霊的体験、熱い情熱があるからといってつまり、その人は霊的に成熟した人だということには決して同意できません。聖霊のバプテスマのような体験を強調する人はこのようによく言います。イエス様を信じ救われた時、聖霊様が共におられ、聖霊を受けてはいますが、それは子供のような信仰なので、後でまた聖霊のバプテスマを受けるべきであり、それによってより成熟されたクリスチャンになり、霊的な大人になれると主張する人もいます。

私はこの意見について“そしたら、霊的な体験がない人は霊的に未熟な人なのか”と聞いて見たいです。

そして、“体験があるからといって、霊的に、人格的に自分が成熟されたと自身を持って言えるか？”と聞いて見たいです。

過去の教会の歴史を調べると、失敗した神様の人々はむしろ特別な賜物をいただいた人がたくさんいました。かえって特別な賜物がない人でも、イエスキリストを伝え、神様の御言葉を教え、たましいをかえりみる神様のしもべとしてより長らく、大いに用いられたことも見られます。反面、むしろ特別な賜物をいただいた人々はつまづいてしまう場合がたくさんありました。なぜでしょうか？人格的に内側の品性が成熟されなかったからです。

ですから、信仰の家族のみなさん！聖霊の賜物と、霊的成熟の間にはなんの関係がないことを覚えて下さい。かえってガラテヤ人への手紙5章22-23節に書かれている聖霊の実こそ、霊的な成熟と関係があり、われらみんなが共に切に慕い求めるべき物ではないでしょうか。“しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。”

そして、もっと大切なのはだれでもイエスキリストを信じ、御言葉のとおり告白したとすれば、その人はすでに聖霊のバプテスマをも受けた人です。自分がイエス様を救い主として信じ受け入れた事実より奇跡的な恵みと特別な体験があるのでしょうか。五旬節聖霊の降臨の以来、聖霊様は主の教会にすでにおられ、我々は聖霊のバプテスマをとおしてイエス様の御体なる教会に属されていることを忘れないでいたいと思います。

<恵みの瞬間五旬節の午前 9時>

聖霊様が臨在されたこの五旬節はイスラエルの三大まつりの一つです。このまつりは過ぎ越しの祭り後7週が過ぎて守られる祭りだったため七週の祭り(出34:22) もしくは五旬節とも言います。‘初穂の実をささげる日’(民数記28:26)という意味として初穂の祭りとも言います。“五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた(使徒2:1)”

ところが、みなさん! もう一つ考えて見たいのは約束された聖霊様は何時ごろ臨在されたと思いますか。?

使徒の働き 2章 15節によると、聖霊に満たされたペテロの説教の中で、‘朝の9時ごろ’だったと記録されています。この時間についてある神学者たちは“どうやって朝の9時という時間にみんな起きて集まることができたのか?”と言います。なぜでしょう? 実は復活されたイエス様が弟子たちに現れたときが日曜日の朝でした。イエス様が昇天される前まで弟子たちと愛餐をされ、神の国について語ってくださったのも日曜日の朝だったので、彼らは五旬節の朝早くから、いつもの通りに集まることができたのです。このことを考えると主日の朝聖徒らが集まることはとっても大切であることが分かります。

<恵みを慕い求めて集まった者たち>

約束された聖霊が臨在されるまで彼らはみな心を合わせて祈りに専念しながら準備していました(1章 14節)。しかし、聖霊が臨在されるその瞬間彼らは何をしていたと思いますか。? 多くの場合、集まっていた人たちがずっと心会わせて祈りに専念していたので、熱心に祈っている間、約束された聖霊が臨在されたのだと考えてしまいがちです。しかし、今日の御言葉を注意深く調べてみると、聖霊が臨在された瞬間、彼らは実際祈っていないことがわかります。その根拠は2章2節にあります。天から、激しい風が吹いてくるような、響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡ったと書かれています。日本語聖書にも昔の聖書には彼らの座っていた家いっばいに響きわたった(1955年改訳版)と書かれています。最近の聖書には座っていたということが抜けています。聖霊の降臨を経験する時、彼らが“座っていた”ということに注目して見る必要があります。なぜなら、ユダヤ人たちは当時祈るときは手をあげて祈ったからです。なのに、本文で座っていたということは聖霊様が臨在されるその瞬間彼らが祈っていたよりかは神様の御言葉を聞いていた時間として考えることがもっと妥当(だろう)だと思います。

愛する信仰の家族のみなさん!

聖霊の働きと御業をみるためにひたすら、祈りだけにかたむいて熱心な人々がいます。しかし、むしろ神様の御言葉を聞いて、分かち合い、学んでいる時こそ、聖霊が約束の通りに来られた事を覚えておきましょう。約束された聖霊に満たされるためには祈りの生活と共に神様の御言葉にもっと熱心に聞き、学ぶべきだと信じます。聖書は神様の約束の御言葉です。ですから神様の約束と恵みを待ち望む人であるなら朝でも、夜でもともに集まる事を好みます。最低でも教会が公に定めておいた時間だけにはかならず参加すべきではないでしょうか。(ヘブル人への手紙10:25-“ある人々のように、いっしょに集まる事をやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。”) 聖霊の神様は集まっていた信仰の群れ、信仰の共同体の上に臨まれました。だれか一人や個人ではありません。キリストの体であり、主の教会になる集まりに聖霊の神様が臨んで下さったことを覚える時、私たちは集まることにどれほど優先に、熱心にならなければならないのでしょうか。

イギリスの医者出身であった有名なロイド・ジョンソン先生の言われたとおりに、我々が教会の集まりに一度抜けたとしましょう。神様の約束ある御言葉と祈りがあるその集まりにいままでに一度もなかった恵みを授けてくださるかだれがわかるでしょうか? そうです。今まで祈りに専念していた主の朝、奥まった部屋に集まって主の御言葉に専念していた120人の聖徒らは約束された聖霊の臨在を味わい、聖霊に満たされました。しかし、大切なのはその場所と集まりの外側にいた人々にはだれも聖霊に満たされませんでした。

ですから信仰の家族のみなさん! 聖徒らが主の教会にともに集まるということがどれほど大切な意味を持っているのか分かりません。だからこそ、ともに御言葉と祈りのために集まる事をもっと熱心に励んで行きましょう。礼拝の時間、祈りの時間、御言葉を学ぶ時間、時間を大切にとりましょう。そして、慕い求めましょう。すると、聖霊がいつかは神様の時にそれぞれ私たちがかかえているやまいや、なやみ、心の病気などを癒して下さると同時に、自分の力ではどうしようもできない問題を解決し、回復させてくださると信じます。約束通り、五旬節に聖霊が臨まれるとき、主の恵みを慕い求めて集まった弟子たちは神様の約束の時がいつであるかはまったく知りませんでした。しかし、神様が注いでくださるすばらしい恵みを味わいました。

我々も同じでしょう。我々が集まるたびに主の御手には我々に注いで下さろうとしている主の恵みがあります。聖霊が我々にその都度ゆるしてくださる恩寵があります。その神様の恵みと恩寵がいつ強く臨まれるか我々は知るわけがありません。我々が従わないため、我々の怠慢のため、我々がまだこの世に未練をおいているため、聖霊は我々の内では強く働くことができないのではありませんか。?

我々の心を感動させる賛美、神様の御言葉への渇き、主の福音を喜んで証ししたい情熱、愛をもって楽しく仕えること、主のためなら何でも働きたち献身、このような聖霊の恵みと力で満たされるこの秋となりますように祈りましょう。聖霊の降臨によって地上に生まれた主の御体なる教会に今日も聖霊様はおられます。今も我々と共におられる聖霊様が今共に主の約束の御言葉を持って祈るクリスチャンプレイズチャーチの信仰の共同体である我々の上にも新しい力を、そして恵みと恩寵を授けて下さいますよう我々の主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!